

令和5年度 第7回いちき串木野の歌人 萬造寺齊顯彰

黎明の地 ふるさと短歌大会集



萬造寺齊顯彰の歌碑（羽島崎神社境内）の隣に設置された
大会入賞者の短歌（第1回～第6回）

主 催 羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後 援 鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
市文化協会・南日本新聞社・れいめい羽島協議会



表紙題字 堂元一静 氏(書道家:いちき串木野市出身)

〔主な経歴〕

2003 世界水フォーラム動書大賞受賞

2005 日本書道美術院展かなの部 全日本書道連盟賞受賞

2006 " 毎日新聞社賞受賞

その他数々の賞を受賞し、多くの個展を開催している。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって	いちき串木野市長	中屋謙治	1
選評	審査委員長	鶴田直樹(歌人)	2
黎明の地ふるさと短歌大会の概要			5
大賞および各部の最優秀賞			8
小学生の部			11
中学生の部			21
高校生の部			31
一般の部			41
留学生の部			47
応募校一覧			49

令和五年度いちき串木野の歌人 萬造寺斉顕彰

第七回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長 中屋 謙治

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では、活力ある教育・文化の振興を図るべく、「ふるさとを愛し、夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、本市では、羽島出身の歌人「萬造寺斉」先生を顕彰するため、地域の方々が、七月九日の命日に先生の墓前で望郷歌を歌う「墓前祭」を毎年実施されており、平成二十九年には先生の没後六十年を迎えるにあたり、羽島史跡顕彰会の方々が中心となって、小説「緑の国へ」を出版。また昨年度には、歌人・萬造寺斉の望郷歌集の小冊子を発行されるなど、継続した顕彰活動に尽力されております。

市といたしましても、地域と一緒にあって萬造寺斉先生を顕彰するために、今回で七回目の短歌大会を実施いたしました。年を重ねるごとに応募作品数は増え続け、県内各地からこれまでで一番多い四千四百四十四首が集まりました。これもひとえに、黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会の皆さんをはじめ県歌人協会の先生方、本大会への応募に関わっていた多くの皆さまのご尽力の賜物と存じます。

集まった作品は、県歌人協会のご協力の下、厳正なる審査を行い、大賞をはじめ多くの優秀作品が選出されました。十月二十二日には、いちきアクアホールにおいて、大賞他三十二作品の授賞式を執り行い、この度、優秀作品等を掲載した作品集刊行の運びとなりました。

短歌はその時々の世相を反映しながら、脈々と創作が続けられてきた日本古来のものであります。本市の短歌大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては、文化の振興につながっていくことを期待して、刊行にあたってのあいさつといたします。

選 評

審査委員長（鹿児島県歌人協会会長） 鶴田 直樹

いちき串木野市羽島出身の歌人萬造寺斉を顕彰して始まった黎明の地ふるさと短歌大会も第七回を迎えました。今年は五月よりコロナウイルスへの対応が緩和され、日常生活を取り戻しつつあります。本年度は応募数が大幅に増え、四千四百四十名の皆さんから歌が寄せられました。応募数は年々増え、この大会が地に根を下ろし始めたのだと思います。実行委員の皆様のお力に感謝するとともに、作品をお寄せ下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

ふるさとや若き日の書読みかへし読みかへしつつ思ひ果てなし

生涯ふるさと羽島への思いを募らせた萬造寺斉のように、今を生きる皆さんが歌をとおして、日々暮す地の魅力を再発見していただけたらと思います。

第七回黎明の地ふるさと短歌大会大賞に輝いたのは、伊佐市立菱刈中学校三年 田中尚希さんの歌です。

グラウンドが汗あせの雫しずくを受け止めて止とまった僕ぼくを走はしり出ださせた

力尽き走れなくなり下を向いた瞬間、グラウンドが自分の汗を受け止めたように感じ、また走り出した。どれだけ努力の汗をしみ込ませてきたグラウンドなのか伝わります。短歌は時を止めたり、その流れを表現できます。良質な映画を見たような、詩のある映像が浮かぶ歌です。

次に各部門最優秀賞の歌を紹介します。

小学生の部 最優秀賞

しおだまり僕が作った水族館いつももちがったともだちでできる

西之表市立住吉小学校五年 内村 薫

種子島に暮す内村さんならではの歌です。潮だまりにはいつも違った魚や生き物があるなんて、なんて豊かな海なんですよ。「僕が作った水族館」がよいですね。宝物みたいな海を大切にしていって下さい。

中学生の部 最優秀賞

木漏れ日とミンミンゼミに急かされて心乱して解く問題集

いちき串木野市立串木野中学校一年 丸尾 愛花

猛暑の中、勉強する様子が伝わります。木漏れ日や蝉の声さえ、自分を急かしているようであせってしまう。思う様に解けない問題は、数学でしょうか。丸尾さんの真面目さと気持ちが良く伝わる歌です。

高校生の部 最優秀賞

低い声夕日の教室2人きり分からないのは数学じゃない

神村学園高等部二年 田丸 幸音

思いを寄せる人に数学を教わっている。本当に聞きたいのは、その人の気持ち。恋の始まりをうまく描いています。たぶん好意を寄せない人には、親切に教えてくれないと思いますよ。美しい青春の日々が続きますように。

一般の部 最優秀賞

亡き父の作業ズボンのポケットに植えずじまいの大根の種

いちき串木野市 蛭原 尚子

最後まで畑仕事に精を出されていたお父様のお人柄を伝える挽歌です。作業ズボンを整理されていて、ポケットに大根の種を見つげられた時の気持ちが良く伝わります。悲しいという言葉を使わず、その深い悲しみが伝わる秀歌です。

留学生の歌

会いたいなミャンマーにいる優しい父お空の上の大好きな母

ミャンマー MYO PA PA KYAW

青い池心はずんだ好きな人触れるぬくもり今は声だけ

ネパール RANA SEBIKA

父母はお寺に行ってお祈りを私は短冊家族の幸せ

ネパール K C BISHAL

高い山彼女と二人で手をつなぐ今は妻と子フィリピンで待つ

フィリピン PEREZ JHONRICK PAROWA

アジアの国々から、日本に来て日本語を学ぶ留学生の皆さん。日本語の上達ぶりと共に、家族や恋人の暮す母国への望郷の思いが良く伝わる歌です。ぜひ短歌との出会いも大切にしてみてください。

以上大賞等一部のみ講評させていただきましたが、年々作品のレベルが上がり継続の力と共に先生方の指導力を表彰したいと思います。

最後に、いちき串木野市をはじめ実行委員の皆さま、学校運営にご多忙の中応募して下さいました先生方に心より感謝申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一 趣旨

本市が輩出した歌人、萬造寺斎氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し 夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」の体现を目指します。

二 主催等

- (一) 主 催 羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
- (二) 主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
- (三) 後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三 応募作品数について

- (一) 小学生の部 六百五十二首
 - (二) 中学生の部 二千四十八首
 - (三) 高校生の部 千百五十一首
 - (四) 一般の部 二百五十三首
 - (五) 留学生の部 四十首
- 計 四千百四十四首

四 各賞について

【入賞】

- 大賞 全部門の中から一名
 - 最優秀賞 各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
 - 優秀賞 各部門一名
- 〃

市長賞	各部門一名	〃
県歌人協会賞	各部門一名	〃
選者賞	各部門一名	〃
教育長賞	各部門一名	〃
南日本新聞社賞	各部門一名	〃
留学生賞	全部門の中から四名	
特選	【小 二十首】	【中 二十首】
入選	【小 三十首】	【中 三十首】
		【高 二十首】
		【高 三十首】
		【一般 二十首】
		【一般 三十首】

五 表彰式について

日時 令和五年十月二十二日（日） 午後一時三十分から

会場 いちき串木野市「いちきアクアホール」

式順 〈オープニング〉 萬造寺 齊の紹介

開会のことば

実行委員会あいさつ……………川口勝則会長

市長あいさつ……………中屋謙治市長

来賓・主催者紹介

表彰

選評……………鶴田直樹審査委員長

閉会のことば

六 選者（一次審査及び本審査）

鶴田 直樹

所属等 県歌人協会会長 にしき江主幹 読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表彰 平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）

作品 現代鹿児島短歌大系 21

鏑流馬 みどり

所属等 県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成副委員長 結社「黎明」運営委員

表彰 平成九年黎明賞（結社賞）受賞 平成十五年平成の歌会平安神宮賞受賞

作品 現代鹿児島短歌大系 19

黒瀬 圭子

所属等 県歌人協会運営委員 にしき江編集委員

表彰 第七回海南賞（結社賞）受賞

寺地 悟

所属等 県歌人協会運営委員 南船社編集委員 日本歌人クラブ鹿児島県代表幹事

表彰 平成四年鹿児島新報文学賞 平成三十年第33回国民文化祭文部科学大臣賞

平野 淳子

所属等 県歌人協会会員 山茶花社会員（結社名「山茶花社」）

表彰 平成二十七年山山茶花賞受賞

川口 俊一

所属等 県歌人協会運営委員 山茶花社編集発行人（結社名「山茶花社」）

大賞および各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会 大賞】

グラウンドが汗あせの雫しずくを受け止とめて

止とまった僕ぼくを走はしり出ださせた

伊佐市立菱刈中学校三年 田中 尚希

【小学生の部 最優秀賞】

しおだまり僕ぼくがつくった水族館いつもちがったともだちできる

西之表市立住吉小学校五年 内村 薫

【中学生の部 最優秀賞】

木漏れ日とミンミンゼミに急かされて心乱して解く問題集

いちき串木野市立串木野中学校一年 丸尾 愛花

【高校生の部 最優秀賞】

低い声夕日の教室2人きり分からないのは数学じゃない

神村学園高等部二年 田丸 幸音

【一般の部 最優秀賞】

亡き父の作業ズボンのポケットに植えずじまいの大根の種

いちき串木野市 蛭原 尚子

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

さなぎからつまぐるひようもんうまれたよたいいくかんのうえまでとんだ

いちき串木野市立生福小学校一年 久徳 想士

【市長賞】

まようとき勇気を出せと背中おすエールに聞こえるフェリーの汽笛

いちき串木野市立串木野小学校六年 岡田 崇廉

【県歌人協会賞】

ハムスターいつもふくれておもそうでたくさんはいるふしぎなホツペ

いちき串木野市立旭小学校三年 高原 陽菜乃

【選者賞】

ひやけしてくろくなつたよぼくのかお白いボールをおいかけつづけ

薩摩川内市立中津小学校二年 川道 礼翔

【教育長賞】

一年生三人入学うれしいなさくらの花もよろこんでいる

薩摩川内市立平佐東小学校三年 奥平 陸仁

【南日本新聞社賞】

牛の角するどくとがり闘うぞどんとたいこのひびき

伊仙町立馬根小学校五年 常 隆貴

【特選】

寒い冬マイナス三度の晴れた日は最高温度でも手が凍り付く

伊佐市立大口小学校六年 山本 らら

七月の夜さのき通りが花開く踊る笑顔が道埋めつくす

いちき串木野市立照島小学校六年 福田 愛琉

おんせんをみんなでつくつてたのしいなすなどおみずとなかよくなつたよ

いちき串木野市立羽島小学校一年 平石 一翔

初日のでまばたきはきん止もうすぐだカウントダウンで赤にそまるよ

いちき串木野市立羽島小学校四年 梶 綜佑

あこがれのおにいちゃんといくつうがくろにもつたくさんひとりでもてるよ

いちき串木野市立生福小学校一年 松田 涼真

水神に手を合わせきくせみの声緑あふれるあじさい園で

いちき串木野市立市来小学校五年 南 愛莉

強い風自転車を漕ぎながらまってよまってよ麦わら帽子

いちき串木野市立市来小学校六年 平石 実里

はまけいばうまのレースをみにいったちいさなうまがかわいかったよ

いちき串木野市立川上小学校一年 蓑手 郁佳

わたり鳥そつと何かをおいていくきれいな羽と四季のお知らせ

いちき串木野市立川上小学校五年 藤井 明理

はずかしくなつたお空はびんく色だれにも言えないことがあるよね

神村学園初等部三年 前屋 茉那

うじうばの島口とびかう夕涼みいつのまにかの島唄大会

伊仙町立鹿浦小学校六年 川畑 柚葵

徳之島夕暮れまぶしい海の色見つめるぼくもマンゴーの色

伊仙町立鹿浦小学校六年 直木 夕士

びゅうと吹く春香る風背をおきれピカピカ入場新入学生

さつま町立求名小学校六年 有馬 伶菜

かえ 帰り道だれかいるよと声こえがしてチューリップがねゆれていただけ

ポンポンとスマレの種がチャイム聞き外にかけ出す子どものように

うまがいるけしきがいいかないかんじうしもたのしそうたかおぼくじょう

ふん火したおたけがおこるにげないといおうたちまでおこっているぞ

お父とうさん子供こどもの味方母みかたの味方みかたどつちなんだよ結局けっきょくどつち

弟は上位高校目指してるだけどいつでもぐうぐうねてる

学校のまどから見えるくすのきに今日も集まるたくきんの子が

【入選】

いさの米こめきれいな水みずの水田すいでんでおいしくそだちみんなのもとへ

夕やけに背中をおされ新記録流れる汗がトラックにしみこむ

がるどんに願ねがいをこめて団子だごな流す水難事故すいなんじこにあわないように

初めての田んぼでやったタニシとりまるで田んぼのカタツムリだよ

はじめてのプールのじゅぎょうつめたくてくしゃみだらけでも楽しいな

仲間なかまからパスをもらってうれしいなりングのちかくレイアップシュート

さつま町立求名小学校六年 上井 希美

さつま町立求名小学校六年 高木 りん

十島村立中之島小学校一年 久木山 晴

十島村立中之島小学校五年 久木山 旭

日置市立鶴丸小学校六年 池田 利汰

日置市立鶴丸小学校六年 坂元 建太

南九州市立松山小学校六年 野上 桜知

伊佐市立大口小学校六年 川崎 里咲

いちき串木野市立串木野小学校六年 井手上 碧芭

いちき串木野市立串木野小学校六年 岡元 咲季

いちき串木野市立照島小学校五年 有菌 晃河

いちき串木野市立照島小学校五年 西中間 千愛

いちき串木野市立照島小学校五年 原田 龍

古くからのりさきさげる照島神社願いや思いを今もくみとる

やどかりが海の中でおにごっこおにはわたしだつかまえてやる

たのしみは初めて会った留学生とあいさつかわし笑い合う時

くしきのにまぐるがあがる大漁だ活気あふれるふるさとの町

びいとぼんなしでぶうるでおよげたよくしきののうみでおよいでみたいな

ツバメとぶ青空きつてどうどうとひなのえきとりどちらにむかう

海の音潮のかおりにみりようされとおくに見える船に手をふる

山の中休まず続くセミの声目の前に来た大暑のけはい

命がけけいこする牛つの合わせ見守るぼくの背に汗流る

たのしみは日曜買ったプラモデル家に帰って組上げる時

ルーピンが道いつばいにさいているじゅうたんみたいだなきれいだな

綱引きは、強いじょうねつかがやく目力あわせていつちだんけつ

山車の上姉妹で舞った夏祭りシャッター音は祖父のカメラ

リコーダーたのしいねいるふくためにれんしゅうしてがんばりたいな

いちき串木野市立照島小学校六年 川野 心優

いちき串木野市立羽島小学校二年 岩切 結衣

いちき串木野市立羽島小学校六年 尾崎 礼奈

いちき串木野市立旭小学校五年 堀 歩夢

いちき串木野市立生福小学校一年 木ノ下 萱央

いちき串木野市立荒川小学校六年 瀬戸口 颯海

いちき串木野市立市来小学校五年 上村 妃羅

神村学園初等部六年 坂元 健

伊仙町立鹿浦小学校五年 中 彪雅

鹿児島市立本城小学校六年 菊地 祐成

鹿屋市立西原台小学校六年 川原 理紗子

薩摩川内市立川内小学校六年 白石 陸斗

薩摩川内市立川内小学校六年 外島 莉奈

薩摩川内市立高来小学校三年 岩下 みさき

さけんでね忘えんしたよつな引きでどんどん引かれくやしかったな

すいすいとクロールしてるこいのぼり海をとびこえこしき島まで

助人すけつとのしんせきたちと汗ながす心をこめた広い田んぼに

誕生日たんじょうび初めてもらったけん玉けんたまを一生懸命練習いっしょうけんめいれんしゅうしたよ

ふるさとに母かあさん待まってる温あたたかさじんわり涙なみだ出てきちゃったよ

お母さん家事で大変おだやかな夜空よぞらの星ほしを見せてあげたい

梅雨の時期雨がやんではまたふって次に見えるのは七色の橋

華やかなトスにスタンツひろうする輝け私チアリーディング

朝昼あさひるにみんな声出こえだし竹太鼓たけだいこ今日はみんなと成果出せいかだす日ひ

試合前かまふた神社でぼく祈るふた落とさずに願ねがいかなえる

【佳作】

ただもとの桜の花見きれいだな家族みんなが花よりだんご

夏休みやつとコロナが減へってきて今年ことしの夏はたくさん遊ぶ

おじいさん犬をつれておやつときあまいにちえがおうれしい気もち

薩摩川内市立永利小学校六年 井原 瑛翔

薩摩川内市立平佐東小学校四年 田中 昭太

薩摩川内市立平佐東小学校六年 染川 琴海

日置市立鶴丸小学校五年 瀬戸口 晴紀

日置市立鶴丸小学校五年 中道 恋花

日置市立鶴丸小学校六年 境田 結愛

日置市立鶴丸小学校六年 山崎 結衣

日置市立和田小学校六年 高見 萌葉

日置市立和田小学校六年 出口 琳悟

南九州市立松山小学校六年 前原 蒼貴

伊佐市立大口小学校六年 山之上 敦都

いちき串木野市立串木野小学校六年 伊集院 風楽

いちき串木野市立串木野小学校六年 富岡 真菜

田植え前泥にまみれてタニシくじよ田んぼにひびくみなわらう声

友達にジャンボタニシ見つけたと言えばおされてどろんこまみれ

きそいあうパカリパカリと浜競馬エールの声に平和感じる

授業の二分前には腰下ろしチャイムの響きに耳すます

六年だ最後の水泳気ひきしめ目標達成できるか私

馬達の荒らい息と飛びちる砂競り合う姿今年こそ見る

浜競馬いちき串木野ならではのいななき響く五月の砂浜

たのしいなわつかくぐりもできちゃったたからさがしもいっぱいひろったよ

見つけたよ石の下からナマコたちつぶつぶいっばいさわるのやめよう

海行つてバケツにいっばいさがしたよヤドカリとりの名人になろう

たのしみは組手の相手とたたかっつてじゅんゆう勝してとびはねた時

たのしみは百メートル走の大会だライバルと並びせり合う時

たのしみは夏の大会自己新を出してコーチにほめられる時

たのしみはあせをかきつつ下校してれいとう庫からアイスとる時

いちき串木野市立照島小学校五年 石川 怜奈

いちき串木野市立照島小学校五年 下迫田 愛那

いちき串木野市立照島小学校五年 平田 結人

いちき串木野市立照島小学校六年 愛川 颯太

いちき串木野市立照島小学校六年 郷迫 夢絆乃

いちき串木野市立照島小学校六年 野崎 由愛

いちき串木野市立照島小学校六年 的場 梨々花

いちき串木野市立羽島小学校一年 梶 心海

いちき串木野市立羽島小学校二年 赤岩 美波

いちき串木野市立羽島小学校二年 小野 水輝

いちき串木野市立羽島小学校六年 赤岩 海里

いちき串木野市立羽島小学校六年 楮山 未来

いちき串木野市立羽島小学校六年 黒木 悠依

いちき串木野市立羽島小学校六年 元山 源太

兄をおい自転車こいではしる道いつでもここにいつまでもここに

むしたちよどんどんないてもりあがれ夜のがっしよはやくききたい

夏になるぎおん祭りの前の日にとうろうえがく祭りのじゅんぴ

にぎやかな太鼓や笛の音ひきこまれみんないつしよにおどりだして

祖父が作るみかんの種類ほうふだね育て方も気持ちも大事

国道線ランナー達の息づかいゼッケン見つけ高まる声援

田うえしてどろのおふろにつかつたらかえるのうたが聞こえてきたよ

つめたいなきらきらしてるきれいだなたまにぬるくてプールはおふろ

ほんまぐろひかりかがやくさしみだよいろんなぶいがたくさんあるぞ

汗のたき川上おどり集中しキャンキャンドンドンひびく音

バスケットでのシュートが入り兄に勝つ次も勝てる自信がついた

ネットで見ることができないキノポリトカゲ普通にえられるここ徳之島

世界遺産自然に囲まれ授業するせみの声との二部合唱で

いつのまにたかくなつたのさとうきびわたしといっしよにたかくなつてよ

いちき串木野市立荒川小学校四年 大迫 颯真

いちき串木野市立市来小学校五年 赤崎 大峨

いちき串木野市立市来小学校五年 村山 佳歩

いちき串木野市立市来小学校六年 中村 悠乃

いちき串木野市立市来小学校六年 藤田 愛梨

いちき串木野市立市来小学校六年 藤山 叶歩

いちき串木野市立川上小学校二年 原田 祐作

いちき串木野市立川上小学校二年 福留 青

いちき串木野市立川上小学校四年 前田 夢奏

いちき串木野市立川上小学校五年 内田 光星

神村学園初等部六年 南 蒼太郎

伊仙町立鹿浦小学校五年 中熊 穂華

伊仙町立鹿浦小学校五年 前 凜空

伊仙町立馬根小学校一年 橋口 真奈

さとうきび身長こされがっかりだ夏の日差しでぐんぐんのびる

しみるよねかんだら出るよあのおぶらとくにおいしいからあげのかわ

巢の中に子ツバメたちが口を開け一・二年生負けず張り上げ

あさがおのはっぱだけでもおいしそうじつとみてたらおなかがなつた

お父さん雨の中でも田うえする首にはタオルシャツはびつしより

みせたいなもうすぐ赤ちゃんうまれるよかわいい赤ちゃん楽しみにして

はじめてのしゅう学旅行楽しみでドキドキわくわくねむれない日々

夕方に五時の放送ながれてた私のお腹一緒になった

ひさしぶりいなかにもどりよぞらみてキラキラひかるこんぺいとう

母さんの説教聞いてぼくの目はなみだたくさんあふれでてくる。

お父さん家族の中の大黒柱いつも冷静たよれる家族

お母さんそうじ上手でねこが好きねこといっしょにベッドでねてる

お兄ちゃんいつでも母におこられてそしてわたしとけんかになるよ

お父さん家族の中のがんばりやルーティンワークで帰って酒飲む

伊仙町立馬根小学校五年 常 龍之助

伊仙町立馬根小学校六年 常 樹

さつま町立求名小学校六年 小野原 希歩

薩摩川内市立中津小学校一年 赤岩 佑真

薩摩川内市立平佐東小学校三年 染川 海誠

十島村立中之島小学校三年 小原澤 良馬

西之表市立住吉小学校五年 上妻 夏穂

日置市立鶴丸小学校五年 有村 心晴

日置市立鶴丸小学校五年 福山 結菜

日置市立鶴丸小学校六年 岩元 雅之介

日置市立鶴丸小学校六年 上稲葉 陽太

日置市立鶴丸小学校六年 永 あんな

日置市立鶴丸小学校六年 勝田 菜心

日置市立鶴丸小学校六年 近藤 里桜

わらう母ははのとなりで父はかたづけをがんばる背中いつもみてるよ

楽しみは学校のかげ友達とくだらないこと話している時

お兄ちゃん家に帰ってすぐゲーム母におこられいじけてやめる

知覧はね緑いっぱい美しいかいもんだけとお茶を一杯

武家屋しきぼくのとうろうどこにある見つけた喜び忘れられない

日置市立鶴丸小学校六年 下茂 鶴紗

日置市立鶴丸小学校六年 新村 宥依

日置市立鶴丸小学校六年 豊田 豪碧

南九州市立松山小学校五年 木村 みはる

南九州市立松山小学校六年 井関 剛士

中学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

海牛うみうしと貝と私の駆ける夏まだ見ぬ青の深さ知るため

いちき串木野市立市来中学校三年 水流 千尋

【市長賞】

がんばれと響くコートに母の声背中おされていけ、僕の足

薩摩川内市立川内北中学校一年 薬師 龍乃介

【県歌人協会賞】

夏祭り夜空で輝く花火達闇にあらがうヒーローみたい

いちき串木野市立串木野中学校二年 柙 奏志

【選者賞】

僕のメンタル豆ふのようにやわらかいいつになればはがねになれるの

鹿児島市立明和中学校二年 バシスト 依沙安

【教育長賞】

夏の舞暁まいあかつきの射手いてがもたらした陽ひに染まりだす大里港

三島村立三島大里学園七年 吉葉 結

【南日本新聞社賞】

三階の窓から見下ろす校庭は誰もいないがなぜかまぶしい

薩摩川内市立川内北中学校三年 樋口 蓮人

【特選】

黑板こくばんを見ているふりして君きみを見る実みのらぬ恋こいだと分わかっているのに

弓を引き流星のごとく射イるそんな姿にあこがれたぼく

空高く十五の個性響かせて一音入魂魂燃やせ

雪降る日窓から見えた熊本城そびえる姿我らの誇り

帰省にて祖父母と会いて別れ際決まりことばのセツペキバリよ

雨の日の薄暗がりの教室でフィルターのかかる曇り空みる

日焼けした金茶の種と私の肌今年もキラリ椿の油

放課後に息を切らして走りこみ夕焼けの中かげ立つ二人

ひらひらと舞い落ちてゆく夕紅葉ゆうもみじ足元見ると紅くれないの道

ふるさとの木々きぎのこもればあびたから私わたしの心温こころあたたかくなる

天気雨おちては消える水玉のアスファルトける夏のおい

つばめたち戻っておいでこの家にずっと変わらず私も居るよ

竹とんぼ「ビュン」と風切る音鳴れば群青の空高々と舞う

伊佐市立菱刈中学校三年 中山 凜南

いちき串木野市立串木野中学校一年 久木山 蒼真

いちき串木野市立串木野西中学校二年 中野 心杏

神村学園中等部一年 中村 夏帆

神村学園中等部三年 田中 愛子

指宿市立山川中学校二年 福里 芽生

鹿児島市立黒神中学校三年 田中 璃杏

鹿児島市立坂元中学校一年 渡邊 絢斗

鹿児島市立坂元中学校三年 川原 菜々華

鹿児島市立坂元中学校三年 吉原 詩織

鹿児島市立明和中学校二年 福万 沙羽

さつま町立宮之城中学校二年 川内 奏佳

さつま町立宮之城中学校二年 堀之内 春記

ガタンガタンボウリングの音1点差負けてしまった弟なんかにはあちゃんの住んでるいなかの商店街雑貨店の古い電灯冷え込んだ朝に見られる川あらし霧が流れて海へと続く夏祭り注文していた浴衣着て「今から行くよ」と君に伝えるきしむいす紅い線路にゆらゆられ僕に手を振る懐しき家
そよ風が一人一人の思いのせ疲れた心をいやしてくれる
ふるさとに残る銃痕祖父の声が頭に残って忘れられない

【入選】

山の中つま先かんじたたけのこや土にうもれたふるさとの味
遠くまで株立つ君を見送れば心にあいたうめられぬ穴
夕暮れの自然の中で鳴き回る親子のツルよ今年もきてね
「寒いね」と竹に火をつけはじける音みんな笑顔で未来を願う
汗ばむ日炭酸注ぐグラスには冷やややかな音鳴り響いてる
そよ風が自然と運ぶ木のおいそれは羽島の朝のプレゼント

薩摩川内市立川内北中学校一年 岩尾 千幸

薩摩川内市立川内北中学校一年 米山 弘起

薩摩川内市立平成中学校三年 植村 理音奈

曾於市立大隅中学校二年 湯前 光姫

十島村立中之島中学校二年 横山 了汰

長島町立平尾中学校二年 田浦 果音

枕崎市立別府中学校一年 前田 海翔

伊佐市立菱刈中学校二年 鹿島 凜咲

伊佐市立菱刈中学校三年 石川 悠喜

出水市立鶴壮学園七年 岡本 華凛

いちき串木野市立串木野中学校二年 後藤 夢果

いちき串木野市立串木野中学校二年 野呂 幸史朗

いちき串木野市立羽島中学校一年 池田 新汰

暗雲のあじさいの咲く通学路私を照らすかすかな光

陽が沈む中沖を背にして帰港するまぐろ船団豊漁なり

歴史ある休止に入った七夕踊色あでやかさが脳裏をよぎる

冬の夜ブラックコーヒー飲みほして徹夜で頑張る受験勉強

湿り風池田湖からの送りもの何故か心地い風の気がした

テスト中全てうまつてペン回し時計の針をじつと見つめる

見えてきた左にそびえる桜島さあ学校まで残り三分

夏になり星空輝く午後10時君と二人で見た流星

公園に若い芝生の緑色葉桜の下水滴一つ

エレベーター横の間隔〇〇と俺本来五センチ五メートル

お帰りは母が焼き置いたさつまいもスピーカーから鳴る町民歌

梅雨の午後少しの晴れ間に外に出て働く人を海が見守る

ちくりんの小さい童ひよつこりととんがり頭をのぞかせている

手に取った小説タイトルホラー系読み終わるとうしろが気になる

いちき串木野市立生冠中学校三年 昌子 結音

いちき串木野市立市来中学校二年 柿森 成介

いちき串木野市立市来中学校二年 藤田 大輝

神村学園中等部三年 田原 駿

指宿市立西指宿中学校二年 池上 鷹揚

指宿市立山川中学校二年 黒寄 夕海音

鹿児島市立坂元中学校二年 住本 愛恵

鹿児島市立坂元中学校三年 川畑 瞬

鹿児島市立坂元中学校三年 二石 寛士

鹿児島市立明和中学校二年 寺田 光輝

中種子町立中種子中学校二年 提 侑那

中種子町立中種子中学校二年 中島 晴

さつま町立宮之城中学校二年 野入 蒼琉

薩摩川内市立川内北中学校一年 鶴本 菜月

ピストルの合図あいずでとび出す一走者いっそうしゃバトンをつなぎゴールをめざす

台風がぼくより元気にやってきた所かまわず遊んで去った

「内緒ないしよだよ」友に明かした胸の内ここしか言えない甘酸っぱい恋

山あいの田畑広がる祖父の家晴耕雨読せいこううどくのような生活

太陽たいようが目を閉じる時とき赤あかの道にかすかに残るゆずのかおりが

大丈夫私を励ます君の笑み潮風吹きまくブランコのそば

転校生きんちようしたよ全員が初めて言ったお名前はなに

雨あがり地面いっぱい水たまりしずくの音につつまれていく

【佳作】

瑠璃色のおじさい横に見つめながらああ梅雨かなと一人帰る

笑う祖父煮しめ手にとり縁側で飛び交うとんぼと香る線香

歌うたなどの形かたちにできぬ我われの歌うたふるさと歌うたえぬこのもどかしさ

おおゲンカだけどすぐにね笑い声これが私のだいじな家族

照島の伝統残る浜競馬一着予想春の楽しみ

薩摩川内市立川内北中学校一年 平野 楓花

薩摩川内市立川内北中学校三年 大井園 琉日

薩摩川内市立川内北中学校三年 東 夏綺

薩摩川内市立平成中学校三年 原 愛依海

曾於市立大隅中学校二年 豊田 翁史

三島村立三島大里学園九年 森 あやの

枕崎市立別府中学校一年 中原 甲斐

南大隅町立根占中学校二年 大塚 滉士

南大隅町立根占中学校二年 久永 彩葉

南大隅町立根占中学校二年 古殿 友愛

伊佐市立菱刈中学校三年 内園田 剛毅

いちき串木野市立串木野中学校一年 有馬 優里

いちき串木野市立串木野中学校一年 中江 太一

浜けい馬たくさん馬が駆けているかげでひそひそルールいはんだ

照島の砂浜で競う浜競馬馬のひづめと風ふきぬける

あと少しあともう少しで三分間まだまだ食べないカップヌードル

夏祭り甘くて苦い一ページ花火と共に見とれる横顔

まぐろ漁今年もついに始まった待っていたかの寒波の到来

串木野の海のおいが飛んできていつしよに踊るさのさ踊りと

今までの思いを込めてとどけるよ最後の戦い仲間と一緒に

母の日にあなたに送るカーネーション頭に浮ぶ満開の笑み

青空を見上げて感じる夏の空雲だけはまだ春の形

そよ風にさくらまいちる只管に夜に輝く星のよう

梅雨明けの田から音色響き渡る虎鶴牛の獣道かな

桜島ドカンバクハツ灰の雨みんな集合ホウキを準備

飛行機雲ふと見て思う入学式夢まっしぐら飛び立った瞬間

鮮やかな緑に染まる庭の樹々過ぎる夏風ざわめく木の葉

いちき串木野市立串木野中学校一年 東 風太

いちき串木野市立串木野中学校二年 川畑 葵活

いちき串木野市立串木野中学校二年 木場 亮太

いちき串木野市立串木野中学校二年 佐藤 煌

いちき串木野市立串木野中学校二年 中島 航貴

いちき串木野市立串木野西中学校二年 川元 大輝

いちき串木野市立串木野西中学校三年 西川 璃乙

いちき串木野市立生冠中学校一年 東 美未

いちき串木野市立市来中学校一年 川畑 心暖

いちき串木野市立市来中学校三年 久松 香織

いちき串木野市立市来中学校三年 福田 結衣那

神村学園中等部一年 池脇 梨音

神村学園中等部一年 東 優月

神村学園中等部二年 大菌 凛

疲れてる私をいやす愛犬の目からきこえる散歩いこうよ

帰省する車の中は眠たいなそれでも食べる熊本ラーメン

たくさんの仲間とともに歩んでく笑って泣いてこれぞ青春

虹の輪でつながっている私たちみんなそれぞれ今生きている

雨上がり草葉にのこった水てきが落ちたしゅん間身にしみる音

セミの声ミンミンと鳴き夏がきた大きな音に気がつく私

夏の音風鈴の音と蝉の音と秋の夕暮れ飛ぶ赤とんぼ

桜の木太陽の下さきほこる風が運んだ祝福の花

夏祭り今年に行けない受験生また一年後ごほうびに行こう

向日葵や雲と真夏の太陽で麦わら帽子と古びたサンダル

じゅうたんののように広がる一面に空をあおいで咲いた向日葵

水しぶき遠ざかりゆく人の声いまなお残る足跡と影

梅雨が来ててるるぼうずがゆらゆらと窓から外を眺めほうける

ラムネびん君と花火を映しだす夜風に吹かれゆるる髪飾り

神村学園中等部二年 殿園 美愛

神村学園中等部二年 成松 和航

指宿市立山川中学校二年 打越 心陽

鹿児島市立坂元中学校一年 白杵 梨花

鹿児島市立坂元中学校一年 本山 大煌

鹿児島市立坂元中学校一年 山下 桜空

鹿児島市立坂元中学校二年 西川 陽姫

鹿児島市立坂元中学校三年 赤崎 美心

鹿児島市立坂元中学校三年 揚野 綾香

鹿児島市立坂元中学校三年 石間 隼斗

鹿児島市立坂元中学校三年 奥園 あおい

鹿児島市立坂元中学校三年 清瀧 叶翔

鹿児島市立坂元中学校三年 早川 大晴

鹿児島市立坂元中学校三年 古江 沙朱

おろしたてサマードレスをなびかせて微笑む君は夏のまにまに

足音と川の音のみねむる森闇夜に螢の明かりが灯る

五月の夜無数の光空を舞う橋からさけぶ「ほーたるこい」

道ばたで飛びかう螢の舞踏会風にゆられる竹の演奏

虎居橋とらいばしにおいにつられ足運び無意識に言う「かえ玉一丁」

「おかえり」とほほえむ笑顔帰り道この日常が私のふるさと

夜に舞う暗闇照らす星々はあの日と変わらぬ夏景色かな

ホタル船手に付くホシはなつかしき闇の中でのスポットライト

真夜中になぜかにぎやか外みると神舞かんまいやってる大宮神社

きんかんの花の匂いで思い出すなつかしい母、ふるさとの匂い

昼間ねて体力保存うちのねこ夜には恒例の運動会だ

五月雨を吸った白靴帰宅すると靴ひもほどけば水滴落ちる

まねーじゃーつめたいタオルさしだしていきかえったよすずしくなった

陸上であらたなことが生まれたよ走る楽しさわかってきたよ

鹿児島市立坂元中学校三年 村山 柚希

さつま町立宮之城中学校二年 桑原 優真

さつま町立宮之城中学校二年 高下 りく

さつま町立宮之城中学校二年 諏訪 侑奈

さつま町立宮之城中学校二年 堀 来生

さつま町立宮之城中学校二年 米良 友莉亜

さつま町立宮之城中学校二年 森永 雄心

さつま町立宮之城中学校二年 山之内 葵

薩摩川内市立入来中学校二年 倉野 樹里

薩摩川内市立入来中学校二年 萩原 海翔

薩摩川内市立川内北中学校一年 池上 瑞実

薩摩川内市立川内北中学校一年 新満 春

薩摩川内市立川内北中学校一年 吉田 凜

薩摩川内市立川内北中学校二年 坂元 蒼唯

憧れの先輩たちと野球するそんな幸せもあと少しだけ

春の日の桜の下ではずむ声花におとらぬまんかいの笑み

朝七時視界がくもる朝霧をゆつくり進む自転車にのって

夏休み虫取り網を持った僕もしもあの日に戻れるのなら

春の夜熱気あふれる大声と道路をふさぐ太い大綱

緑濃く昔遊んだあの森の秘密の基地は今どうなっている

子どもの日私はどっち三年後有権者なり未来へ進む

高城川に橋を渡す工事中景観が変わりさびしく思う

浜下り太鼓の音とかけ声がともに重なり歩く大男

弥五郎どん毎年この日に起きてきて一緒に回る曾於市の町を

薩摩川内市立川内北中学校二年 松尾 奏志

薩摩川内市立川内北中学校二年 森園 麻央

薩摩川内市立川内北中学校二年 柳澤 刀守

薩摩川内市立川内北中学校三年 上園 典央

薩摩川内市立川内北中学校三年 橋口 遼介

薩摩川内市立川内北中学校三年 畠中 奏丞

薩摩川内市立川内北中学校三年 森山 雄斗

薩摩川内市立平成中学校二年 一松 大喜

曾於市立大隅中学校二年 荻迫 莉愛

曾於市立大隅中学校二年 渡邊 稜太

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

夏祭り神社で出会った男の子背中に尻尾が見えた気がした

県立串木野高等学校三年 西田 由莉彩

【市長賞】

試合後の悔しき晴らす素振り練観音ヶ池の夕焼けを切る

県立市来農芸高等学校三年 出森 迅

【県歌人協会賞】

麦秋や手伝いをして得た祖母の知恵背に担ぎ母と田に立つ

県立市来農芸高等学校三年 古川 由芽

【選者賞】

テスト前スマホに夢中母親の静かな怒りを背中に受ける

県立川内商工高等学校一年 山下 恭汰

【教育長賞】

ただいまと三年ぶりの我が故郷低くなつたな弟の声

県立鹿児島水産高等学校一年 大隣 尊

【南日本新聞社賞】

糊のりとれた実習服に腕通し眠気忘れて畑に走る

県立市来農芸高等学校二年 新屋敷 奈々美

【特選】

つるのきと赤くそまったいなかみちゆつくりかえる原付バイクげんつき

歛あふるいいとこと競あいて土づくり祖父の畑がよみがえっていく

目の前で産まれたたまご温てのひらかく掌包む冬実習や

炎昼のビニルハウスの農実習汗した分だけぶどうは甘く

鶏の解体実習まだ慣れず「いただきます」の言葉噛みしむ

県外に出ること決めた僕を乗せ家族ドライブ月三に増え

農実習トマトのえき芽摘んだ手を洗えば泡もえき芽色なり

ガタゴトと夕暮れの中走り出す今日の嫌いやなことホームに置いて

袴締めとめはねはらい思い込め大きな板に大胆に書く

行かないで。止める私に目もくれず駆け抜けていく十六の夏

臥龍梅香りと共に春を連れツンも見上げる藤川の空

もう一度貴方の歌声聞けるなら綿毛と共に空の上まで

愛おしい私の母国語話すキミだけど明日あすには空っぽの席

県立出水工業高等学校三年 柴田 羽流

県立市来農芸高等学校二年 上村 愛

県立市来農芸高等学校二年 五反 美羽

県立市来農芸高等学校三年 石澤 緑

県立市来農芸高等学校三年 宇都 翔

県立市来農芸高等学校三年 川元 瑛詞

県立市来農芸高等学校三年 野村 美結

県立市来農芸高等学校三年 牧内 わか葉

県立串木野高等学校三年 古垣 夏実

神村学園高等部一年 今村 優空

神村学園高等部一年 西柳 一葉

鹿児島情報高等学校二年 下野 舞桜

鹿児島情報高等学校三年 清藤 瀬夏

田植え機に祖父と一緒に座る僕ハンドルの横に手を添える祖父

遊び場のきびついているブランコが擦れて叫んだ鎖の悲鳴

穏やかな木々の音色が風に乗りずっと隣を歩き続ける

帰り道いつもと同じ影一つ前とは違い悲しげな奴

こぼれでた思いを我に打ち明けて去りゆく君は冬の空の下

夏風^{なつかぜ}が汗ばむシャツを通りぬけ僕の背中を押してくれてる

すなはまにしずみかけてる夕日みて風といっしょになやみがとんだ

【入選】

息白^{しら}む朝を飾るは鳥の声起きろ起きろと呼びかけてくる

あくまきを荷物に入れてふるさとの思いが届く端午^{たんご}の節句^{せっく}

椿落ち後悔ばかりがのこる地へ午後四時発のきつぷをにぎり

春休み数年ぶりの墓参り軍艦島に夕日が沈む

手をつつくにわとりたちに苦戦して桜前線通り過ぎてく

規格外の野菜抱えて電車乗る入ってよかった農業高校

県立川内商工高等学校一年 高柳 悠人

県立川内商工高等学校一年 谷口 鳳介

県立川内商工高等学校一年 南 未央

県立鹿児島水産高等学校二年 上村 悠人

県立鹿児島水産高等学校二年 田中 海誠

県立鹿児島水産高等学校三年 嶋岡 朔大

県立鹿児島水産高等学校三年 山下 哲平

出水中央高等学校一年 太田 侑杜

県立出水工業高等学校二年 高橋 杏太

県立出水工業高等学校二年 町口 千夏

県立市来農芸高等学校一年 嶋岡 新大

県立市来農芸高等学校二年 北山 真孝

県立市来農芸高等学校二年 竹田 菜月

実習で育てた野菜が本日の夕げの主役脚光浴びて

夕涼に生まれた子牛の産声が牛舎の風鈴優しく揺らし

動物の行列歩く体育祭育てた牛とよそ行き顔で

農実習カーネーションの花がらを摘む手に僅かの迷い残しつつ

宿題のシャーペン重き夏休み気付けば明日学校じゃないか

シャーペンの音響く部屋ただ一人背中を押すは増える赤丸

梅雨明けと推しのツアーが重なって夏の暑さも熱気に変える

鳴り響く太鼓と共に歩き出す合わせて歌う妙円寺詣り

面はずし守破離の字ある手ぬぐいで涙隠した決勝試合

靴箱を包み込むのは夏の海逆さのローファー鞆かぬ

向日葵が陽に向け顔を見上げてる私も未来を見据え進もう

片手にはへなへな草をにぎりしめ緑いっぱい私の通学路

ふるさとは前に進めるシェアハウス今日も誰かを応援している

どこからも空が大きいふるさとで胸の時計はゆっくり進む

県立市来農芸高等学校二年 田邊 ゆきな

県立市来農芸高等学校二年 根釜 由空

県立市来農芸高等学校二年 原田 眺惇

県立市来農芸高等学校三年 竹原 希望

県立市来農芸高等学校三年 三浦 楓太

県立串木野高等学校三年 入江 心

県立串木野高等学校三年 南竹 舞耶

神村学園高等部一年 川野 星蓮

神村学園高等部一年 田原 瑠菜

神村学園高等部一年 月元 智鹿

神村学園高等部二年 松尾 向日葵

鹿児島情報高等学校二年 有水 愛理

鹿児島情報高等学校二年 上野 文華

鹿児島情報高等学校二年 新福 渚

帰り道夕焼けを背に駆けて行くあの日の友の「またね」が恋しい

合う度に好きの二文字が喉の奥子どものままで18の夏

青天の空にて踊るルリカケスはためく姿はまるで彗星

朱い頬暑さのせいと嘘をつく好きが溢れるあなたの隣

一人きり夕日にあたる帰り道上手にかくれたはずだったのに

雨降る日傘をつらぬく水の音一人歩いた静寂の道

夏祭り手を握られて赤いほほ握り返して恋の始まり

畑作業辞めてしまった祖父母たち畑に行っても人影がなく

いつもより早起きした日の静けさは心の汚れも落としてくれる

放課後の教室から見る波の色時間とともに赤く染まりゆく

【佳作】

汗と土くしゃくしゃの髪と嗚咽さえ脳裏に残る墨球人生

不知火の青い海から来る鶴は冬に出水を繁栄させる

ふるさとに帰ってきたら思い出す畑のにおいや牛の鳴き声

鹿児島情報高等学校三年 稲本 優奈

鹿児島情報高等学校三年 神園 愛莉

鹿児島情報高等学校三年 川畑 陽奈子

鹿児島情報高等学校三年 帖地 ひなの

鹿児島内商工高等学校一年 井龍 寿哉

鹿児島内商工高等学校一年 窪 脩斗

鹿児島内商工高等学校一年 戸塚 琉碧

鹿児島内商工高等学校一年 平松 正悠

鹿児島鹿児島水産高等学校三年 井上 朝陽

鹿児島鹿児島水産高等学校三年 山神 李月

出水中央高等学校一年 小橋 明莉

鹿児島出水工業高等学校一年 諏訪 颯汰

鹿児島出水工業高等学校二年 大井 悠綺

梅雨つゆの時期あまぞら雨空彩るあじさいの青い花卉の映える世の中

思い出のふるさと思ふ春の日を悲しむごとに花が咲きけり

ふるさとの波の音聴き日が沈む浜辺を歩き貝殻拾いて

御衣ぎよいこう黄の咲く頃聞こえるおはやしの音徐福に捧ぐ花冠

家の庭エサあげようかニワトリに近づくならけられ大ケガ

足取らる我に手を貸す友人が雨後の畑に尻もち残す

次々と土の香まとい顔を出すここ掘れわんわんじゃがいも収穫

田植え時期汗の滴る生徒達下手に植えると冷たい視線

「ただいま」と永良部の空気吸い込めば島言葉出てふるさと帰る

仕事行く母の代わりか白鷺のだれてる我に「ギャア」と一喝

負け試合見ていた母の夕食はいつも以上に大皿盛られ

将来のこと話する散歩道母の横顔そつと確かむ

教室で面接練習泳ぐ目に焦る自分と近づくと期日

縁側にうちわ片手に寂寥の喉を滴る一息のあと

県立出水工業高等学校二年 坂上 怜央

県立出水工業高等学校三年 古賀 凧人

県立出水工業高等学校三年 宮内 駿弥

県立市来農芸高等学校一年 大平 杏華

県立市来農芸高等学校一年 松下 翼

県立市来農芸高等学校二年 川崎 葵

県立市来農芸高等学校二年 中村 吏那

県立市来農芸高等学校二年 福山 智子

県立市来農芸高等学校三年 伊口 慎一

県立市来農芸高等学校三年 迫 夏蓮

県立市来農芸高等学校三年 下池 翔真

県立市来農芸高等学校三年 長谷川 千也

県立串木野高等学校三年 岩塚 偲月

神村学園高等部一年 川口 綺來里

田んぼ道「おかえり」と声かけられた「ただいまです」と返す喜び

祖母からの帰り際に渡された潮香漂う贈りものたち

雨の中励む練習陸上部汚れに塗れてまみ生まれる結晶

アオダイショウツバメの子を見てほくそ笑む己を狙う猫に気付かず

友達と足つける川輝いてアイスが溶ける湧水ゆうすいの夏

帰路につく川内川のせせらぎやオレンジ色に染まる君の背

窓越しに時速80の景色を見汗ぬぐう手とゆれる吊り葎

帰り道桜舞い散る裏路地で頬に伝わる温かい風

雨傘の静かに響く雨粒に心おちつくどうしてだろう

寒空やふたご流るる星の海ココア片手に吐く息は白し

寝転がる私の耳にしとしと梅雨空響く水の合唱

靴ずれて小さく踏み出すローファーも今や我が物小石蹴け飛ばす

今はもう聞くことできぬふるさとの鳥の歌声川のささやき

帰り道友達と別れ聞こえる落ち葉の音やとうふ屋の音

神村学園高等部一年 竹本 陽向

神村学園高等部一年 山崎 天依菜

神村学園高等部三年 軍原 隼斗

神村学園高等部三年 武 妃和乃

神村学園高等部三年 田原 愛菜

神村学園高等部三年 橋口 明穂

鹿児島情報高等学校二年 有水 愛里

鹿児島情報高等学校二年 岡崎 乃空

鹿児島情報高等学校二年 橋口 開一

鹿児島情報高等学校三年 木村 優太

鹿児島情報高等学校三年 中道 紗彩

県立川内商工高等学校一年 植田 ひより

県立川内商工高等学校一年 川添 蕾輝

県立川内商工高等学校一年 木佐貫 碧生

孫を思い祖父が育てるすいかたち愛情だけで真つ赤に熟れる

砂時計時はもどせぬグラウンドの砂はさらさら青春時間

おどろきだ祖父の職業畑仕事手伝い三分汗止まらない

帰り道夕日に照らされ道光り虫と稲穂がささやいている

悩んでは妹に聞くアドバイス前より愛のこもる星の絵

破天荒波強くうつ白波の中勇ましく見える漁しの背中

枕崎かつおの白いがかおってる夕やけと一緒にただよう白い

ふるさとの星がきらめく静かな夜懐かしき人の面影に触れる

家の前線路の横で踏切が刹那に響く汽車の目覚まし

風鈴のチリンと音が鳴る頃に夏の香りがかすかに匂う

海の音に轟くように振り向けば夕日に染まる大野岳かな

雨上がり霽きらめくお茶の波朝日かがやく海原のように

火ノ神の立神岩によいしれて心がすぐ落ちついたんだよな

夏晴れに青の一線映る花流れる砂に想いこぼれて

県立川内商工高等学校一年 木佐貫 菜那

県立川内商工高等学校一年 新満 翔太

県立川内商工高等学校一年 堀之内 隼斗

県立川内商工高等学校一年 松永 虎士

県立川内商工高等学校一年 弓場 幸恵

県立鹿児島水産高等学校一年 臺場 孔明

県立鹿児島水産高等学校一年 中村 翔貴

県立鹿児島水産高等学校二年 伊佐敷 諭

県立鹿児島水産高等学校二年 市来 朋也

県立鹿児島水産高等学校二年 上妻 健太朗

県立鹿児島水産高等学校二年 竹之内 梨愛

県立鹿児島水産高等学校二年 中原 巧人

県立鹿児島水産高等学校二年 廻 紳太朗

県立鹿児島水産高等学校二年 山内 玲梨

潮しおの音おと漂おとう良よき町まち枕まくら崎さき耳みみが喜よろこぶおんザおんワおんザおんワおん音おん

県立鹿児島水産高等学校三年 岩崎 海斗

風かぜにのりかつおのにおいがただよつてきおくのなかはなつかしきかな

県立鹿児島水産高等学校三年 岩下 真奈

朝あさ虹にじと私わたしを見み守まもるさ薩さつ摩ま富ふ士し今け日にも元もと氣けにいつてきます

県立鹿児島水産高等学校三年 迫中 穂香

帰かえりみち道みちほのかに香かほるう海うみ風かぜの風かぜを感かじるかつおの町まち

県立鹿児島水産高等学校三年 野口 愛子

かつおぶしか香かほつてくるときよみがえるあのひ過ごした青あお春はるのひ々々

県立鹿児島水産高等学校三年 宮菌 輝星

一般の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

にぎりなき白花を噴ける木槿あり言葉乏しき母の住む庭

霧島市 有川 陸子

【市長賞】

節太の祖母の手で搗くぬくり餅のどにするりと夏を連れ来る

霧島市 松永 由美子

【県歌人協会賞】

父になる真夏の笑顔さらしつつチャイルドシートを息子は購ひぬ

薩摩川内市 新屋 純子

【選者賞】

もらい湯を母と済ませた幼き日港の舟に波寄すひびき

日置市 伊東 ユリ子

【教育長賞】

「白蓮」の心の揺らぎか今朝の海長崎鼻の潮風つよし

いちき串木野市 黒江 康子

【南日本新聞社賞】

エイサーを初めて踊る一年生目力めちから強く一步踏み出す

いちき串木野市 漣泊 昭子

【特選】

耳遠き老母が守りし我が生家終の棲家をいかで定めん

荷馬車いた遠き昔のふるさとよばんばよきばれ海砂けつて

千切れたるテープ引きずり戻りゆく遠洋縮船の妻たち

授業中向かい窓には君がいて届いてるかな私の想い

縁先に船虫あまた這ひ出づるああ古里の朝は変らず

通学路の浜寄せ返す波に遊び遅刻は常の島の子われら

競りのあさ乗車を拒む牛の背を押しあぐ父の息しろく立つ

箴音の絶えて久しきふるさとは「結び」の慣ひに馬鈴薯を掘る

ちちははと暮らした家もふるさとも手放した空雲の峰見ゆ

白寿の宴に「串木野さのさ」うたひたる笑顔顕たせて師の忌巡りぬ

黒南風の暴れし夜の雷鳴に目覚めて遠くおとうと思ふ

雨宿りしてをりたるにいつ間にか押しくら始む島の子五人

状差しの見慣れし文字は義姉からの最後の手紙逝きて夏くる

いちき串木野市 梅北 成文

いちき串木野市 上楯 美津

いちき串木野市 平石 勝嗣

神村学園専修学校看護学科一年 斉藤 空

始良市 塩満 曉洋

鹿児島市 石原 百合子

鹿児島市 今村 圭子

鹿児島市 里山 喜和子

鹿児島市 玉利 可英子

鹿児島市 辻 優

鹿児島市 濱崎 悦子

鹿児島市 丸山 克介

鹿児島市 森 洋子

夏草の露より生れし蚊の一匹友のごとくに近づきまどふ

朽ち家の枇杷の熟るるを見廻りて里の鴉は宙に伝ふる

郭公の鳴く停留所にひっそりと時間調整する空つばのバス

照島の渚にゆるる夕日影長患いのわれを癒やせり

箱根路の旅の記念に手ざわりよき寄せ木細工の椀二つ買ふ

ふる里に赤き重機が行き交ひて農の息吹きの三番茶終ゆ

コロナ禍の縛りもほどけ聖五月母に合ふため古里へ発つ

【入選】

雁が飛ぶV字バランス夕暮れに俺に続けと言わんばかりに

ふるさとの友は未だに「オツコちゃん」呼ばれて私も子供に還る

その昔この道逃げたと母語る平和の証あかしのきを踊る

墓を閉じ納骨堂に壺おさめごめんとつぶやく母の横顔

手をとりにて母と向かうは神の道初孫に湧く戌の日参り

幾度もものの大事を説く母逝けり初盆の膳土の香深く

鹿児島市 山下 順子

霧島市 児玉 久

薩摩川内市 今村 えり子

薩摩川内市 笹原 武幸

日置市 坂口 和世

南九州市 早川 ヨリ子

熊本県八代市 船間 和子

いちき串木野市 相良 一洋

いちき串木野市 溜池 とよ子

いちき串木野市 永尾 貴子

いちき串木野市 火野坂 嵩之

いちき串木野市 原田 紗由里

いちき串木野市 前屋 浩文

日も暮れて川面かわもにうつるオレンジや帰れ帰れと子どもを急かす

一本道流鏑馬を射る若者は駒目掛けて大きい息吐く

母からの浴衣身に付け茜色思いを乗せてお茶点ちやたんてる午後

「よか味に漬かったね」と言えばどや顔の妻は酢ラツキョウを天下あめに配る

甲子園手に汗握り画面越し声援送る郷土の誇り

鳥たちは国境をこえのんびりと群れて暮すに人世ひとよの難かたし

古参竹の芽吹くころなり仄めかす青葉風ふく七階の窓

牛うしが鋤すき老も子も植え里の田に機械一台植え田の揃う

荒海を眺める老漁師骨休みに「ダレヤメ日和」と港を去る

夫歌う今宵も呑むぞと空仰ぎ上弦の月に酒をみたして

荒草に覆はれてみし故郷の空き地に売地の看板立てり

今いちど訪ねてみたしふるさとの下宿ひとりひとりで苦悶せし家

坊ぼんの沖大漁旗のはためきや「ハンニヨイサアサア」のまぼろし聞こゆ

送迎の若き介護士と腕を組み頑固つぼねの局ぼくも笑みて出でゆく

神村学園専修学校作業療法学科一年 田中 愛乃

神村学園専修学校作業療法学科一年 二木 空

神村学園専修学校看護学科一年 本坊 くるみ

鹿児島市 油田 重隆

鹿児島市 岩城 正英

鹿児島市 加藤 宏子

鹿児島市 門松 弘子

鹿児島市 上村 ヒロ子

鹿児島市 新迫 加代

鹿児島市 杉本 葉子

鹿児島市 田口 涼子

鹿児島市 田中 司郎

鹿児島市 中村 砂喜子

霧島市 南 房子

病む腰を父の遺したステッキが宥め励ます暮れのふるさと

過疎の村に一人で生きた百歳の老女の庭に紅梅絢爛

海眺む校舎に子らの声は無し記念碑の際影と草伸び

さよならとなりたるあの日その様は木の葉一枚散るに似たりし

あくまき到下駄菓子添へられ荷にひそむ娘に読ませたき郷の地方紙

幼なき日家族総出の田植之日はやさしい母のふくれと煮しめ

コロナ過ぎ人の心は荒みしか事件の多さと自然災害

亡き姑の伝授の呉汁は今嫁へ豆乳ふわりとやさしい味へ

廃屋の庭に転がる飼葉桶満腹なりし馬の蹠ちくる

針原の田の緑消え宅地化し昔のままは空の青のみ

熊毛郡屋久島町 大牟田 壮一郎

薩摩川内市 奥園 和子

薩摩川内市 永田 武史

薩摩川内市 平田 立子

曾於市 脇丸 洋子

日置市 荻 朝子

日置市 高橋 アツ子

日置市 元吉 まき子

南九州市 若松 富士子

名古屋市 児玉 直

留学生の部

高い山彼女と二人で手をつなぐ今は妻と子フィリピンで待つ

神村学園専修学校日本語学科二年
ペレス ジョアンレック パロワ
PEREZ JHONRICK PAROWA

父母はお寺に行ってお祈りを私は短冊家族の幸せ

神村学園専修学校日本語学科二年
ケーシー ビシヤル
K C BISHAL

青い池心はずんだ好きな人触れるぬくもり今は声だけ

神村学園専修学校日本語学科二年
ラナ セビカ
RANA SEBIKA

会いたいなミャンマーにいる優しい父お空の上の大好きな母

神村学園専修学校日本語学科一年
ミョ パ パ キヤウ
MYO PA PA KYAW

応募校一覽 計五十八校

※市町村は五十音順
学校は、小中高の順にて掲載

- 伊佐市
 - 伊佐市立大口小学校
 - 伊佐市立菱刈中学校
 - 出水市
 - 出水市立鶴荘学園
 - 県立出水工業高等学校
 - 出水中央高等学校
 - いちき串木野市
 - いちき串木野市立串木野小学校
 - いちき串木野市立照島小学校
 - いちき串木野市立羽島小学校
 - いちき串木野市立旭小学校
 - いちき串木野市立生福小学校
 - いちき串木野市立荒川小学校
 - いちき串木野市立市来小学校
 - いちき串木野市立川上小学校
 - いちき串木野市立串木野中学校
 - いちき串木野市立串木野西中学校
 - いちき串木野市立生冠中学校
 - いちき串木野市立市来中学校
 - 神村学園初等部
 - 神村学園中等部
 - 県立市来農芸高等学校
 - 県立串木野高等学校
 - 神村学園高等部
 - 神村学園専修学校日本語学科
 - 神村学園専修学校こども学科
-
- 指宿市
 - 指宿市立西指宿中学校
 - 指宿市立山川中学校
 - 大島郡
 - 伊仙町立鹿浦小学校
 - 伊仙町立馬根小学校
 - 鹿児島市
 - 鹿児島市立本城小学校
 - 鹿児島市立黒神中学校
 - 鹿児島市立坂元中学校
 - 鹿児島市立明和中学校
 - 鹿児島情報高等学校
 - 鹿屋市
 - 鹿屋市立西原台小学校
 - 肝属郡
 - 南大隅町立根占中学校
 - 熊毛郡
 - 中種子町立中種子中学校
 - さつま町
 - さつま町立求名小学校
 - さつま町立宮之城中学校
 - 薩摩川内市
 - 薩摩川内市立川内小学校
 - 薩摩川内市立高来小学校
 - 薩摩川内市立中津小学校
-
- 薩摩川内市立永利小学校
 - 薩摩川内市立平佐東小学校
 - 薩摩川内市立入来中学校
 - 薩摩川内市立川内北中学校
 - 薩摩川内市立平成中学校
 - 県立川内商工高等学校
 - 曾於市
 - 曾於市立大隅中学校
 - 鹿児島郡
 - 十島村立中之島小学校
 - 十島村立中之島中学校
 - 長島町
 - 長島町立平尾中学校
 - 西之表市
 - 西之表市立住吉小学校
 - 日置市
 - 日置市立鶴丸小学校
 - 日置市立和田小学校
 - 枕崎市
 - 枕崎市立別府中学校
 - 県立鹿児島水産高等学校
 - 三島村
 - 三島村立三島大里学園
 - 南九州市
 - 南九州市立松山小学校

萬造寺 齊（まんぞうじひとし） 明治19年（1886）羽島生れ。

明治38年(1905)18歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺齊あり」といわれる。

明治41年(1908)21歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。

東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鷗外を中心として『すばる』が発刊される。大正3年(1914)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き活躍した。戦後、歌集『萬造寺齊選集』10巻が刊行される。

大正7年(1918)31歳のときに郷里に帰る。

昭和32年(1957)7月9日、療養所で70歳で亡くなる。

同年11月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。

昭和35年(1960)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。

歌碑には、萬造寺齊の歌集から作家である佐藤春夫が選んで新村出博士が揮毫した3首の歌（※）と、友人である矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。



羽島崎神社境内にある歌碑



萬造寺 齊 生誕の地

※望郷歌

行かまほし悩みいたづき振りすてて

南の海辺遠きふるさと

ふるさとや海のひびきも遠き世の

こだまの如し若き日思へば

ふるさとの浜の砂原小石原

生きてふたたび踏まむ日なきか